



近世人物誌

やまと新聞附録

花井お梅
 今月酔月の女房お梅故折柄を六小秀
 新橋をへ秀吉とて三筋の茶屋に居て
 け三彈の何でも宜氣隨氣でこれ
 鳴うた果五月の闇の暗き夜に以
 前内箱今の食客の峯吉と殺世
 事の普人の知る所から彼を
 殺せしその原因は二様あり一は
 峯吉が平生よりお梅を懸想し言
 寄るお梅も數度ありしが流石な面
 取かきお梅の毒を風吹の柳の
 受居りし或る夜完を呑む
 情欲を遂ぐし迫りしより此を得
 此之を切害せしといふありし世
 にも人も包むべき大事と峯吉と
 せし彼の同意をせざるより事の爰
 及びしともいふ二者何れも是なる
 う公判の上お梅の知るお梅は
 唯お梅は是迄も情まの自己小の
 かたわらしを憤りしを害さんと威
 したる事二度及みされし此度の
 峯吉殺し想ふ種入込なる事情
 もりん免よか凄き婦人ありし



やま

發行所 東京 京橋区 尾張町三丁目一番地 やまと新聞社
 編輯人 奥隅衣二

